

患者さんの人生を支える  
理想的な地域医療・チーム医療の  
提供体制をめざします

院長 河野 茂

まづな

地域連携情報誌 No.25

## 医療者として一番の使命を考える

2024年4月1日、病院長に就任した河野茂です。これまでは副院長・手外科センター長として、主に手の疾患にお困りの患者さんに対応してまいりました。怪我のため引退をせまられたスポーツ選手が、当院の治療を受けることで競技に復帰されるということも多々ありました。このような事例から、「怪我や病気になること」そして「治療を経て社会生活に復帰するということが患者さんの人生に及ぼす影響の大きさについて、あらためて考えさせられます。これは整形外科に限らず、どの診療科にも共通することです。患者さんの訴えを聞き、これまでに培った診療技術で患者さんの人生を支えていくことが、我々医療者の一番の使命ではないかと思っております。

そのために重要なのは、医師、理学・作業療法士、看護師、薬剤師、栄養士など多くの専門職種が協力してお一人おひとりの患者さん、ご家族に対応することです。グループ内外の先生方とも互いの能力を補い合い、理想的な地域医療・チーム医療を提供できるように努力してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 河野 茂 プロフィール

◇ 医学博士

◇ 日本整形外科学会：整形外科専門医

◇ 日本整形外科学会：脊椎脊髄病医

◇ 日本整形外科学会：運動器リハビリテーション医

1990年 3月 京都府立医科大学医学部卒業

1990年 5月 京都府立医科大学整形外科学教室 研修医

1992年 4月 ユニチカ中央病院整形外科医員

1993年 4月 京都府立医科大学大学院入学  
神戸大学医学部解剖学教室国内留学

1995年 4月 京都大学医学部解剖学教室国内留学

1997年 3月 京都府立医科大学大学院卒業

1997年 4月 社会保険京都病院整形外科医員

1999年 4月 明石市立市民病院整形外科医長

2001年 7月 西陣健康会堀川病院整形外科部長

2004年 7月 京都府立医科大学整形外科講師

2008年 1月 社会保険京都病院

整形外科部長・リハビリテーション科部長

京都府立医科大学臨床准教授

2014年 4月 京都鞍馬口医療センター

整形外科部長・リハビリテーション科部長

2015年 1月 京都武田病院整形外科部長

2018年 7月 十条武田リハビリテーション病院  
手外科センター長

2022年 4月 十条武田リハビリテーション病院 副院長

# ■ 手外科センター

## 専門性の高い治療を行っています

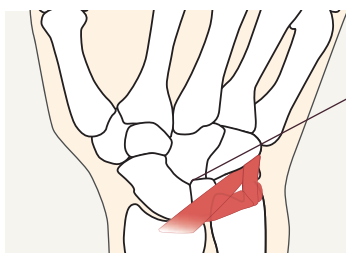
「手」は日々の暮らしやお仕事に影響する大切な器官です。身近なちょっとしたトラブルで怪我しやすく、思わぬ苦勞を強いられることも少なくありません。手の構造は非常に複雑で、トラブルが多いのに対し、治療する専門医が少ないのが大きな課題です。当院手外科センターは、手領域の手術数が**京都でトップレベル**（2023年：456件）の専門医療機関です。他施設ではほとんど行っていない手の鏡視下手術も積極的に行っています。専門リハビリの体制も充実しておりますので、手のトラブルがありましたら是非、当科にご相談ください。

### 手首の外側の痛みがいつまでも続きます

#### TFCC損傷の可能性がります

難しい言葉ですが、手首の外側部分には橈骨と尺骨をつなぐTFCC（三角繊維軟骨複合体）という靭帯・腱・軟骨がハンモックのようにまとまっている部位があります。このTFCCは、倒れる自転車を咄嗟（とっさ）に支えるなど、思わぬ負荷がかかると痛みやすいのが特徴です。一般の診療では見逃されることが多く、「いつまでも治らない」と当科を紹介されて判明することが多いです。重度の場合は「鏡視下手術」で治療を行っています。鏡視下手術は直径1.9mmの小さなカメラを入れ、靭帯を縫うなどの治療を行うものです。傷が小さいため回復が早い、低侵襲な治療です。

またTFCCは先天的に尺骨が飛び出ているケースが多く、再発予防のためにこれを短くする処置も一緒に行っています。



#### TFCCとは

手首の小指側で骨関節を支える靭帯と軟骨でできた組織です。手をついたりひねったりすることで損傷を受け長く痛みが続くことがあります。関節鏡を用いた手術で治療することがあります。



術前



術後



# ■ 新任ドクター紹介

## リハビリテーション科 副部長 相井 誠次郎

2024年4月1日に赴任した相井誠次郎と申します。これまでリハビリテーション科専門医として様々な患者さんの治療に従事してきました。とくに高齢の入院患者さんは嚥下障害を併発されるケースが多く、こうした患者さんの治療を担当させていただきました。当院でも嚥下障害をはじめとする様々な患者さんの治療に多職種協働で臨んでいく考えです。関係医療機関と密接に連携し地域に貢献してまいります。どうぞよろしく願いいたします。



### 略歴

1999年 岩手県立中央病院研修医  
2017年 浜松市リハビリテーション病院 医員  
2018年 聖隷浜松病院 医員  
2019年 浜松市リハビリテーション病院 医員  
2024年 十条武田リハビリテーション病院  
現在に至る

### 所属学会

■ 日本リハビリテーション医学会専門医

## 整形外科 医長 阿部 健吾

6月中旬より整形外科に就任する阿部と申します。整形外科領域の中では、骨折を中心とした外傷、人工関節を中心とした治療を行ってきました。最近の5年間は、大学院時代から継続していたiPS細胞由来軟骨を用いる再生医療に関する研究を続けておりました。臨床に戻るのは久々であり、楽しみな反面不安も多少ありますが、患者さんに寄り添う気持ちを常に持ちながら努力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。



### 略歴

2013年 京都大学医学部医学科卒業  
国立国際医療研究センター 初期臨床研修医  
2015年 京都大学医学部附属病院 整形外科医員  
大津赤十字病院 整形外科 後期臨床研修医  
2017年 日本赤十字社和歌山医療センター 整形外科修練医  
2018年 日本赤十字社和歌山医療センター 整形外科医師  
2019年 京都大学 医学研究科医学専攻 博士課程学生  
2023年 大阪大学大学院医学系研究科 組織生化学 特定研究員  
2023年 大阪大学大学院医学系研究科 組織生化学 助教

### 所属学会

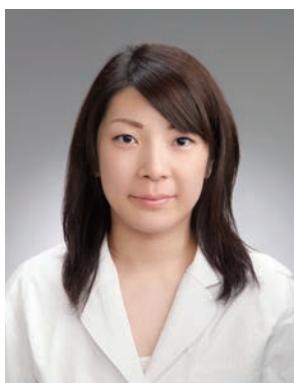
■ 医学博士  
■ 日本整形外科学会 専門医  
■ 日本整形外科学会認定リウマチ医  
■ 日本スポーツ協会公認スポーツドクター  
■ 日本人工関節学会  
■ 日本骨代謝学会  
■ 日本炎症・再生医学会

## ■ 日進月歩の糖尿病領域 最適な治療提供に努めたい

このたびご縁をいただき、再び当院に着任しました。糖尿病専門医として糖尿病外来、教育入院を中心に内科患者さんを診させていただこうと考えています。

糖尿病分野の技術革新は日進月歩で、新薬の開発、多様な血糖測定方法の開発など、5年もたてばガイドラインではfirst choiceの薬剤が変更されるような時代です。最近では、持続血糖モニタリング測定機器「リブレ2」も発売されました。1分毎にグルコース値をスマホに転送でき、就寝時などの血糖低下時は患者さん・ご家族に注意喚起されるようになりました。また、糖尿病治療薬が美容・痩身・ダイエット等の目的で一部の美容クリニックで処方され、糖尿病の患者さんに薬が行き渡らない事態となっているとの報告もあるようです。学会からの新しい情報にアンテナをはりつつ、患者さんに最適な治療を提供できるよう精進して参ります。

糖尿病治療の主役は患者さんです。医師を中心に看護師、薬剤師、管理栄養士など多職種がチームとなり、開業の先生方と一緒に支えていく必要があります。引き続き地域に貢献できるよう、誠心誠意励みたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。



### 糖尿病センター 医長 関岡 理沙

#### 略歴

2006年三重大学医学部医学科卒業・済生会川口総合病院研修医、2008年慶應義塾大学病院腎臓内分泌代謝内科、2014年十条武田リハビリテーション病院、2015年京都山城総合医療センター糖尿病内科、2018年慶應義塾大学大学院医学研究科博士課程修了、2024年十条武田リハビリテーション病院 現在に至る

#### 所属学会

- 医学博士
- 日本糖尿病学会  
糖尿病専門医、研修指導医
- 日本内科学会  
認定内科医、総合内科専門医
- 日本内分泌学会
- 日本甲状腺学会

### 患者サポートセンターから

平素より大変お世話になっております。4月より副院長の河野医師が院長に就任します。新院長のもと、各種病院、開業医の先生方、介護や福祉の事業所様などと連携させていただき、よりよい地域医療が提供できるように取り組んでまいりたいと思っております。外来受診や入院などお気軽に患者サポートセンターまでお声掛けください。今後とも何卒よろしくお願ひいたします。

### 患者サポートセンター

TEL 075-671-2523 (直通)

FAX 075-671-2654 (直通)

8:30~17:00 日曜日・祝日・祭日・年末年始除く

#### 理念・基本方針

- 1.地域の医療機関、福祉、介護施設との連携を深め、地域医療の中核を担っていきます。
- 2.プライバシーの尊重と心のふれあいを大切に、利用される皆様患者さんとの良い信頼関係を築きます。
- 3.安全で質の高い医療の提供のために日々研鑽し、技術と知識の習得に努めます。
- 4.私たちは、病院という生命に直接関わる職場に勤務することを自覚し、生きがいと誇りの人間性豊かな医療人をめざします。



十条武田  
リハビリテーション病院



患者サポートセンター



医療法人財団 医道会

十条武田リハビリテーション病院

〒601-8325 京都市南区吉祥院八反田町32番地  
TEL 075-671-2351 (代表) FAX 075-671-2961